

2050年の地球環境を見据えて 持続可能な社会への新たなチャレンジ

～「TG2050環境チャレンジ」「第6次環境取り組みプラン」を策定～

現在の地球環境は、人口増加や資源の大量消費、異常気象、生物多様性の損失など様々な課題を抱えています。豊田合成グループは、世界のお客様のニーズに応えながら製品をグローバルに提供する企業としての責任を果たすとともに、持続可能な社会の実現に向けて「TG2050環境チャレンジ」と、その最初の実行計画として2020年までの目標を定めた「第6次環境取り組みプラン」を策定し、全員で取り組んでいきます。

環境分野の取り組みを強化する

豊田合成グループは、環境との調和を図りながら、社会と共に持続的に成長していくことを目指しています。そのために、温暖化や資源の枯渇、生物多様性の損失など、深刻化する環境問題に正面から向き合っていきたいと考えています。そこで私たちは、環境保全に貢献できる製品の開発や、生産工程の省エネ化など、環境分野の取り組みを今まで以上に強化していきます。

製品開発においては、クルマの燃費向上に寄与する軽量製品や、省エネに貢献するLED製品などの開発に注力しています。今後は、走行時にCO₂を出さない電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）などのエコカー向け製品の開発にも一層力を入れていきます。また、企業の社会的責務として、世界的な環境規制の強化に対応していくためにグループ全体で、製品に含まれる化学物質の管理体制を整備していきます。

生産工程においても、2050年までに工場からのCO₂排出量を限りなくゼロに近づけていくことを目標に、生産設備や工程の小型化・省エネ化に向けた生産技術の開発を加速させます。また、太陽光発電などの再生可能エネルギーや水素エネルギーを活用していきます。これらの推進のため、生産技術部門、環境部門が連携できる体制を整えました。

さらに、あらゆる事業活動において、CO₂排出量の低減に加え、水の使用量や廃棄物の量を大幅に減らすため、専門チームを新設して改善を進めていきます。また、従業員の環境保全への意識を高めるため、社内教育などを続けるとともに、行政やNPO団体などとも連携して自然共生、生態系保護の活動も行う予定です。

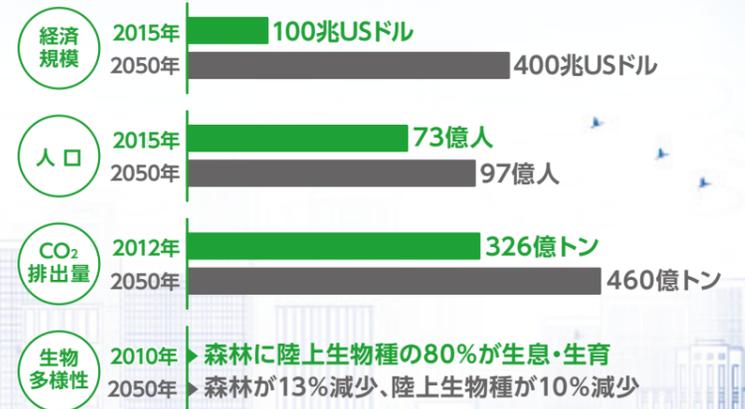
これからも豊田合成グループは、環境保全に積極的に取り組んでいきます。



常務執行役員 環境部担当
宮本 康司



(出典) 環境省 平成25年版図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書 OECD 環境アウトルック2050EDMC / エネルギー・経済統計要覧 2015年版
United Nations Department of Economic and Social Affairs



TG2050環境チャレンジ ～みどりあふれる豊かな地球を子どもたちに～

ゴム・樹脂の高分子分野の専門メーカーである豊田合成グループが象徴としている六角形の「ベンゼン環」(高分子の原点となる構造体)にちなんだ「6つのチャレンジ」を掲げ、2050年を見据えた長期的視点で環境保全の取り組みを推進していきます。



持続可能な社会の実現

「みどりあふれる豊かな地球を子どもたちに」

「TG2050環境チャレンジ」の最初の実行計画である
「第6次環境取り組みプラン」では従来よりも高い目標を掲げ、
持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化・拡大しています。

TG2050
環境チャレンジ
2021～
2050年

- 低炭素社会・循環型社会の実現に貢献する製品の提供
- 事業活動で排出するCO₂・廃棄物、
使用する水の量を限りなくゼロにする



CO₂が発生しないエネルギーの活用
(太陽光発電・水素エネルギーなど)



環境保全に貢献できる
人材の育成

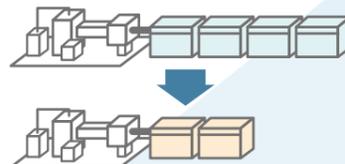


エネルギー・材料の置換が不可欠

- 環境保全に貢献できる製品の開発を強化
(製品の軽量化、LED製品の拡大など)

- CO₂・廃棄物の排出量、水使用量の低減に
向けた生産技術の開発を強化

- 高効率な設備の導入
- 工程のコンパクト化



● 蒸気・エアーを
使わない
工程づくり

2020年度目標(対2012年度比)

生産時のCO ₂		低減目標
グローバル連結	原単位	12%
国内連結	原単位	15%
豊田合成(株)	原単位	17%
豊田合成(株)	排出量	17%
物流時のCO ₂		低減目標
豊田合成(株)	原単位	8%
温室効果ガス(6ガス ^{※1})		低減目標
豊田合成(株)	排出量	62%

製品・技術 ● 製品の軽量化 ● LED製品の拡大

- リサイクルしやすい製品設計
- 梱包のスリム化
- 水の再利用
- 製品に含まれる化学物質の管理強化
- 地域社会への貢献
- トヨタグループと連携した活動(ビオトープの設置など)
- 豊田合成グループ全体での推進組織の整備
- 社外への情報発信量の増大(CSR報告書、ニュースリリースなど)

2020年度目標(対2012年度比)

廃棄物		低減目標
国内連結	原単位	10%
豊田合成(株)	原単位	12%
海外関係会社	原単位	6% ^{※2}
梱包材		低減目標
豊田合成(株)	原単位	8%
水		低減目標
国内連結	原単位	8%
豊田合成(株)	原単位	8%
海外関係会社	原単位	8%

2020年度目標(対2012年度比)

VOC ^{※3}		低減目標
国内連結	原単位	6%
豊田合成(株)	原単位	6%



- 豊田合成グループ全体での環境管理の体制強化
- 従業員への啓発強化

従来の2倍以上の目標値

- 日常的な改善が中心
 - ・ 生産工程の日常改善(エアー漏れ改善など)
 - ・ 工場照明のLED化
 - ・ 廃材の分別
 - ・ 不良の出にくい工程づくり
 - ・ 水漏れ改善
 - ・ 豊田合成グループ全体での植樹活動(工場の森づくり)
 - ・ ビオトープの試作
 - ・ 地域の清掃活動
 - ・ 豊田合成グループ全体での環境管理
 - ・ 従業員への啓発

これまで

低炭素社会

(生産・物流時のCO₂、その他の温室効果ガスの低減)

循環型社会

(廃棄物・水使用量の低減)

環境保全・自然共生社会

環境マネジメント

※1: ハイドロフルオロカーボン(HFC)、パーフルオロカーボン(PFC)、六フッ化硫黄(SF₆)、メタン(CH₄)、亜酸化窒素(N₂O)、三フッ化窒素(NF₃)

なお、三フッ化窒素(NF₃)については、第6次環境取り組みプランから新たに追加

※2: 2013年度比

※3: 揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds)